### 産地ブランド発掘事業 取組概要 $(H29 \sim H30)$

# 『マーケットニーズの高いりんどうの導入による夏秋期花き産地の育成』

=宮崎県=

### 【全体概要】

りんどうは夏秋期の業務需要に欠かせない品目であるが、近年、物流環境の変化により流通量が減少していることから、九州内 での産地化が求められている。そこで、地域の特性に応じた品種を選定し、県内全域での産地化を図ることで、マーケットニーズへ の対応を目指す。

# 新品種・新技術等の概要

〇(有)スカイブルー・セト育成品種

東北や甲信越といった冷涼な地域にお いて普及しているが、九州では導入が制 限されており、本県での生産はこれまで 行われていなかった。



# 〇耐暑性種間雑種系統

(有)スカイブルー・セトにより平成25年 度に育成された系統であり、本県では平 成26年度に耐暑性を確認するために試 験的に導入された。



# コンソーシアム候補の体制図

【協力農家】

・実証は栽培管理

**『情報共有** 

・実証ほの運営管理

-各種調査

各種データ記帳等

【普及センター(産地指導機関)】

連携

【実需者】

- 品種の評価、情報発信 消費者向け商品開発
- 指導 情報共有

調整·情報共有

【農業経営支援課(農業革新支援専門員】 事業実施計画、活動計画の作成・運営

助言 指導 各種検討会の開催

連携

関係機関、参画機関との調整

連携

【品種開発者】

・種苗の供給

- 品種情報の提供



真携

#### 【各JA】

- 各種検討会への参画
- 産地化に向けた指導
- 【JA宮崎経済連】
- ・流通情報の収集 出荷、流通形態の検討
- 【県農産園芸課】

連携

各種検討会への参画 振興方針への反映

【総合農業試験場】 ・各種調査、実証へ の助言

# 実績と今後の展開

- 2年間の現地試験の結果により、本県がりんどう生産に適 した産地であることを明らかにしたことで、中山間地域にお ける花きの新たな推進品目に位置づけることができた。
- ・県内におけるりんどう栽培面積が  $18a(H28) \rightarrow 38a(H30)$ に増加し、今後の生産拡大が見込まれる。
- 九州内のりんどう供給量が減少しているという現状を踏ま えて、九州一の消費地である福岡県内卸を主要出荷先に 位置付け、宮崎産りんどうの知名度向上に取り組んでいく。

# 主な取組内容

### 【検討会の開催】

- 実証ほ設置検討会(2回)
- ・実証ほ現地検討会(4回)

## 【マッチング活動の実施】

- ・市場担当者との意見交換会(2回)
- 実需者との意見交換会(1回)

### 【産地・実需者の発掘調査】

県内産地における導入意向調査(1回)